



## 2年サイエンスツアー 2日目 Aコース 農業環境技術研究所・国立環境研究所



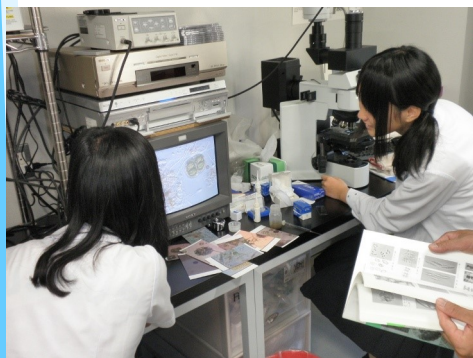
2日目Aコースでは、農業環境技術研究所と国立環境研究所を訪問しました。農業環境技術研究所は、農業をとりまく環境についての研究所です。農業が環境に及ぼす影響、環境が農業に及ぼす影響、環境全体(環境資源の収集・保存)についての研究がなされています。

最初に、農業生物資源研究所内にある隔離圃場を見学させていただきました。圃場では、トウモロコシとダイズの遺伝子組換え植物を観察しながら、ラウンドアップ耐性やどのような遺伝子の組換えを行ったのかなどについて、詳しく説明していただきました。

次に、吉村泰幸先生に「遺伝子組換え作物に関するわが国の現状」、松尾和人先生に「遺伝子組換え作物の環境影響評価について」という演題で講演していただきました。講演では、「遺伝子組換え作物の安全審査はどうなっているのか?」「害虫耐性の遺伝子組換え作物は他の昆虫に影響しないのか?」など、私たちが普段疑問に思っていることについて説明していただきました。その後、講師の先生方と遺伝子組換え作物についての話し合いを通して、学習を深めることができました。

### 参加生徒の感想より

「この研修を受ける前は、GM作物が自然に与える影響に対して不安がありました。しかし、多くの研究を経て、一般に出回っていることを知りました。研究データから、結構高い確率で交雑が起こっているようなので、さらに研究が進み、この確率が少しでも下げられればいいと思いました。」「GM作物を使うと、農薬や手間が節約できることは知っていたけれど、二酸化炭素の削減ができることは知らなかった。まだ、賛否両論はあるけれど、私はこれからGM作物は重要になってくると思った。」「GM作物についてあまり知らなかったなので、実際にその作物を見たり、講義を受けて、知ることが多く、とても楽しかったです。普段気にせず食べていたものに使用されていたのかと思うと、驚きました。」



午後は、国立環境研究所での研修でした。この研究所は、公害問題が深刻な状況にあった1974年に環境庁の研究所として、筑波研究学園都市に設置されました。大気汚染や水質汚濁などの地域的な環境問題から化学物質による環境影響など、我が国及び世界における環境研究の中核として、最新の設備と幅広い専門知識を駆使した研究がなされています。

ここでは、7つのグループに分かれて実験・実習の指導を受けました。

### 実験・実習内容

- ① ストレスで誘導される植物ホルモン(エチレン)のGC測定
- ② 身近な有害物質の測定
- ③ 池の中のプランクトン観察
- ④ 自然土壌・廃棄物資材を用いた廃棄物処分場浸出水の浄化
- ⑤ フローサイトメトリーによる身近な植物の交雑の検出
- ⑥ ため池の水の水質測定
- ⑦ マコガレイの年齢査定(耳石の摘出と観察)

2日目Bコースは、KEKコミュニケーションプラザ、JAXA・筑波宇宙センター、【産総研】サイエンス・スクエアつくば、国立環境研究所(講演会)を訪問しました。詳細は次号で…

